

## リオ+20：女性は強い発言権を持つ必要がある

ミシェル・バチエレ UN Women 事務局長

2012年4月14日配信

来る6月、国連持続可能な開発会議（UNCSD）,別称、リオ+20 がブラジルのリオデジャネイロで開かれます。この会議は持続可能な開発の背後での政治的取り組みを新たにすることを指すもので、つまり、環境資源の活用と、経済成長および社会的な利益の追求とのバランスを強調する考え方を求めるものです。この会議に出席する各国政府は、持続可能な開発に関して以前なされた世界的な合意の履行に関する進捗状況とギャップを査定することになりましょう。そして、各国政府は、今日の世界が直面する、新たに生じた課題に関することを含めた、行動の加速化を図るのに必要な新たな合意に向けて協議することになりましょう。

20年前に開かれた第一回国連環境・開発会議では、ジェンダー平等と女性のエンパワーメントが持続可能な開発に不可欠なものであることが確認されました。そして1995年、第四回世界女性会議で出された北京行動綱領は、こうした考え方を支持しました。

こうした合意と現場でのさまざまな努力がなされたにもかかわらず、持続可能な開発の指導者として、また受益者としての女性の可能性は必ずしも十分に実現されてはいません。世界の人口の半分を占める女性が、持続可能な開発を現実のものとするあらゆる側面で、平等な機会と強力な発言権を持つことが必要です。

UN Women はリオ+20 の下準備で高い目標を目指し、3点の達成を求めています。第一は、会議で出される国際的合意が、持続可能な開発における、社会的、経済的、環境的領域の全般にわたって女性の中心的役割を十分に反映するものであること。第二は、草の根の女性の声が政府間会議から会議に至るまで、そして会議そのものにおいて、強く反映され、その結果として、女性が政治的合意を形成し、その前進をはかれるようにすること。第三は、持続可能な開発を履行するためのその後の対策すべてに、持続性の新たな目標と測定を含めて、ジェンダー平等と女性のエンパワーメントが十分に盛り込まれるべきこと、です。

これまでリオ+20への出席を表明した40カ国の政府が、成果合意案に向けた早期の提言を通じて、ジェンダー平等への支援を示唆しています。28カ国がグリーン・エコノミーのいくつかの側面でジェンダー平等を促進させることを、そして14カ国が持続可能な開発に関連する政策決定の場への女性の参画拡大を強調しています。そのほか多くの国がジェンダー平等を持続可能な開発の基本原則であると認めています。現在、合意草案が、会議に先立つ政府間会議で検討されています。現在から、政府並びにあらゆるグローバルな活動家が会合を開く6月までの課題は、ジェンダー平等と女性のエンパワーメントが最終合意のあらゆる側面にわたって確実に盛り込まれるようにすることです。

リオ原則が述べているように、「女性は環境の管理と開発に重要な役割を持っており、女性たちの十分な参画が持続可能な開発を達成するうえで必須の条件」なのです。UN Women、

国連持続可能な開発会議（UNCSD）に向けたウィメンズ・メジャー・グループ、および世界中のジェンダー平等提唱者たちは、このプロセスに積極的にかかわっています。そうした努力の一つとして、UN Women の支援を受けて、ウィメンズ・メジャー・グループがオンライン調査をおこなって、世界中の女性たちのニーズと声が確実に集約され、リオ準備期間中に伝播されるのを支援することが含まれています。

その他の目的の中で際立つのは、グローバルな地域社会が、今日出てきている課題やギャップと取り組む持続可能な開発課題をかかげようと、リオに目を向けていることです。そこには、21 世紀に向けた持続可能な開発の新たな目標と測定値が含まれます——それは、国際的なコミュニティ、個々の政府、民間部門が成功を測定する手段なのです。ジェンダー平等と女性のエンパワーメントは、開発と評価のあらゆる新たな枠組みに十分に反映されなければなりません。この過程で、ジェンダー平等と女性のエンパワーメントを持続可能な開発目標自体として確立することのみならず、他の持続可能な開発目標のすべてを通して盛り込まれることが必須のこととなりましょう。それには長期にわたる努力と投資が必要でしょうし、UN Women は、そのパートナーに対して、この方向に向けての努力への支援を求めています。

幸いなことに、機運の高まりがあります。国連事務総長のグローバル持続性に関するハイレベル・パネルは、最近以下のような声明を出しました。「とりわけ、いまなお執拗なジェンダー不平等は、持続可能な開発に向けたあらゆる真剣なシフトの重要な部分として取り組まなければならない」と。民間企業数百社が、その多くは国際的なものですが、職場でのジェンダー平等を進めるための女性のエンパワーメント原則に署名をいたしました。そして2012年、UN Women は、厳しい経済的風土のなかにもかかわらず、国際的なコミュニティからの支援を得て、設立1周年を祝賀することができました。世界の、そしてビジネス界のリーダー、市民、さらには活動家の皆さんが健全な社会における、そして弾力性の強い地球のために欠かせない女性の役割を認めています。

女性が政策決定プロセスへの参画のために、資源と機会への平等なアクセスを手にしたとき、グリーン・エコノミーの成長、貧困削減、健全な環境管理のための効果的な担い手となり、受益者となり、かくして現世代と将来世代のための持続可能な開発に益することになるのです。

リオは、持続可能な開発の達成に向けたジェンダー平等と女性のエンパワーメントの価値を強調し、この目的のために一致した圧力をかける機会となります。ジェンダー平等と今日の持続性の課題が必要としているのは、まさにそのことなのです。

平野和子（UN Women 日本国内委員会理事） 記